

第 1 章 総 則

(目的)

第1条 この社会福祉法人(以下「法人」という。)は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、心身ともに健やかに育成されるよう、また、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1)第一種社会福祉事業

障害者支援施設の経営

(2)第二種社会福祉事業

- (イ) 障害福祉サービス事業の経営
- (ロ) 障害児通所支援事業の経営
- (ハ) 生活困窮者就労準備支援事業の受託経営
- (ニ) 福祉サービス利用援助事業の経営

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人千歳いずみ学園という。

(経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、経済的に困窮する者や生活に不

安がある地域の独居高齢者、障がい者等を支援するため、無料又は定額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を北海道千歳市泉郷403番地9に置く。

2 前項のほか、従たる事務所を北海道千歳市春日町3丁目5番1号と北海道千歳市清流2丁目4番4号に置く。

第 2 章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人には、評議員 7名 以上 13名 以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

- 2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、事務局員1名、外部委員1名の合計3名で構成する。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名が出席し、かつ、外部委員の1名が賛成することを要する。

(評議員の資格)

第7条 社会福祉法第40条第4項及び第5項を遵守するとともに、この法人の評議員のうちには、評議員のいずれか一人及びその親族その他特殊の関係がある者(租税

特別措置法施行令第25条の17第6項第1号に規定するものをいう。以下同じ。)の合計数が、評議員総数(現在数)の3分の1を超えて含まれることにならない。

(評議員の任期)

第8条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。
- 3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第9条 評議員は、無報酬とする。

- 2 評議員には、費用を弁償することができる。

第 3 章 評議員会

(構成)

第10条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第11条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 事業計画及び収支予算
- (5) 計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録の承認

- (6) 定款の変更
- (7) 残余財産の処分
- (8) 基本財産の処分
- (9) 臨機の措置(予算外の新たな義務の負担及び権利の放棄)
- (10) 公益事業に関する重要な事項
- (11) 解散
- (12) 社会福祉充実計画の承認
- (13) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第12条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3箇月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

- 第13条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。
- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第14条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
 - (2) 定款の変更
 - (3) その他法令で定められた事項
- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の

決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第16条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

（議事録）

第15条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名がこれに署名し、又は記名押印する。

第4章 役員及び職員

（役員の数）

第16条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 6名以上 8名以内
- (2) 監事 2名以上 3名以内
- 2 理事のうち1名を理事長とする。
- 3 理事長以外の理事のうち、1名を常務理事とする。

（役員資格）

第17条 社会福祉法第44条第6項を遵守するとともに、この法人の理事のうちには、理事のいずれか一人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数（現在数）の3分の1を超えて含まれてはならない。

2 社会福祉法第44条第7項を遵守するとともに、この法人の監事には、この法人の理事（その親族その他特殊の関係がある者を含む。）及び評議員（その親族その他

特殊の関係がある者を含む。）並びに、この法人の職員が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係がある者であってはならない。

（役員選任）

第18条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

（理事の職務及び権限）

第19条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、常務理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3 理事長及び常務理事は、3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

（監事の職務及び権限）

第20条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

（役員任期）

第21条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。

3 理事又は監事は、第16条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は

監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第22条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第23条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

- 2 役員には、費用を弁償することができる。

(職員)

第24条 この法人に、職員を置く。

- 2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。
- 3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

第5章 理事会

(構成)

第25条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第26条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び常務理事の選定及び解任

(招集)

第27条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、常務理事が理事会を招集する。

(決議)

第28条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第29条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 出席した理事及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第6章 資産及び会計

(資産の区分)

第30条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産の2種とする。

- 2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

- (1) 北海道千歳市泉郷403番地9、10、12、493番地2、3、4所在の鉄筋コンクリート・鉄骨造陸屋根・亜鉛メッキ鋼板葺2階建
千歳いずみ学園園舎1棟 (面積1,866.49 平方メートル)

同番地所在のコンクリートブロック造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
機械室1棟 (面積 21.12 平方メートル)

同番地所在の鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
車庫・作業棟1棟 (面積 167.65 平方メートル)

- (2) 北海道千歳市泉郷4 9 3番地18、4 0 3番地9所在の木造合金メッキ鋼板葺平家建
生活訓練ハウス1棟 (面積 435.82 平方メートル)
- (3) 北海道千歳市泉郷2 8 9番地5所在のブロック造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
作業棟1棟 (面積 223.09 平方メートル)
- (4) 北海道千歳市泉郷4 9 3番地2所在の鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
作業棟1棟 (面積 264.87 平方メートル)
- 千歳いずみ学園施設 (延面積 2,979.04 平方メートル)
- (5) 北海道千歳市旭ヶ丘4丁目2 0 3 6番8 0所在の木造亜鉛メッキ鋼板葺2階建
上田ハウス1棟 (面積 198.94 平方メートル)
- (6) 北海道千歳市清流2丁目4番地4所在の鉄骨造平家建
いずみワークセンター建物1棟 (面積 945.56 平方メートル)
- (7) 北海道千歳市春日町3丁目6番地1、2 8番地1所在の鉄筋コンクリート造陸
屋根3階建 訓練所・事務所1棟 (面積1,414.95 平方メートル)
- (8) 北海道千歳市清流2丁目6番地5所在の木造亜鉛メッキ鋼板葺2階建
清流ハウス1棟 (面積136.63 平方メートル)
- (9) 北海道千歳市泉郷4 0 3番地9所在の千歳いずみ学園敷地
宅地1筆 (面積4,530.81 平方メートル)
- (10) 北海道千歳市泉郷4 0 3番地1 0所在の千歳いずみ学園敷地
宅地1筆 (面積 301.20 平方メートル)
- (11) 北海道千歳市泉郷4 0 3番地1 2所在の千歳いずみ学園敷地
宅地1筆 (面積1,973.19 平方メートル)
- (12) 北海道千歳市泉郷4 9 3番2所在の千歳いずみ学園作業棟敷地
宅地1筆 (面積3,529.67 平方メートル)

- (1 3) 北海道千歳市泉郷4 9 3番3所在の千歳いずみ学園機械室敷地
宅地1筆 (面積 879.88 平方メートル)
- (1 4) 北海道千歳市泉郷4 9 3番10所在の千歳いずみ学園敷地
原野1筆 (面積 822.00 平方メートル)
- (1 5) 北海道千歳市旭ヶ丘4丁目2 0 3 6番8 0所在の上田ハウス敷地
宅地1筆 (面積 297.02 平方メートル)
- (1 6) 北海道千歳市春日町3丁目6番1所在の訓練所・事務所敷地
宅地1筆 (面積 2,147.58 平方メートル)
- (1 7) 北海道千歳市春日町3丁目2 8番1所在の訓練所・事務所敷地
宅地1筆 (面積 390.47 平方メートル)
- (1 8) 北海道千歳市清流2丁目6番5所在の清流ハウス敷地
宅地1筆 (面積409.07平方メートル)

3 その他財産は、基本財産以外の財産とする。

4 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第31条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を得て、千歳市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、千歳市長の承認は必要としない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資(独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。)に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合(協調融資に係る担

保に限る。)

(資産の管理)

第32条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

(事業計画及び収支予算)

第33条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事総数の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所及び従たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第34条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)
- (5) 貸借対照表及び収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間、また、従たる事務所に3年間 備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所及び従たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第35条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第36条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第37条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を受けなければならない。

第7章 解散

(解散)

第38条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第39条 解散(合併又は破産による解散を除く。)した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

第8章 定款の変更

(定款の変更)

第40条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を経て、千歳市長の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を千歳市長に届け出なければならない。

第9章 公告の方法その他

(公告の方法)

第41条 この法人の公告は、社会福祉法人千歳いずみ学園の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第42条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長	伊 藤	弘
理 事	小 池	金 吾
理 事	村 上	勇 治
理 事	小 川	豊 治
理 事	森	清 八
理 事	広 重	兼太郎
理 事	石 井	博 美
理 事	木 村	義 隆
理 事	中 里	和 夫
理 事	新 谷	利 治
理 事	富 永	正 修
理 事	清 水	修
理 事	滝	止 士
監 事	山 崎	武
監 事	北 岡	体 一

この定款は、平成29年4月1日から施行する。

細 則

社会福祉法人 千歳いずみ学園 定款第24条第1項の理事長が専決できる「日常の業務として理事会が定めるもの」について、次のように定める。

- 1 施設長等の任免その他重要な人事を除く職員の任免
- 2 職員の日常の労務管理・福利厚生に関すること
- 3 債権の免除・効力の変更のうち、当該処分が法人に有利であると認められるもの、その他やむを得ない特別の理由があると認められるもの
ただし、法人運営に重大な影響があるものを除く
なお、理事長個人が特別の利害関係を有する場合は、常務理事が専決する（以下、4・5・6・7項についても同様とする）
- 4 設備資金の借入に係る契約であって予算の範囲内のもの
- 5 建設工事の請負や物品購入等の契約のうち、随意契約の範囲のものであって、次のような軽微なもの
(1) 日常的な消費する給食材料、消耗品等の日々の購入
(2) 施設整備の保守管理、物品の修理等
(3) 緊急を要する物品の購入等
- 6 基本財産以外の固定資産の取得及び改良のための支出並びにこれらの処分
ただし、法人運営に重大な影響があるものを除く
- 7 損傷その他の理由により不要となった物品又は修理を加えても使用に耐えな
いと認められる物品の売却又は廃棄
ただし、法人運営に重大な影響がある固定資産を除く
- 8 予算上の予算費の支出

- 9 入所者・利用者の日常の処遇に関する事
- 10 入所者の預り金の日常の管理に関する事
- 11 寄付金の受け入れに関する決定

この細則は、平成12年12月13日より施行する。

平成28年11月30日 一部改正